

令和  
3年度

# 浦安の子どもたちの 確かな学力の向上を目指して 全国学力・学習状況調査結果

令和3年5月27日実施

## 本資料の目的

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた、**授業改善**に向けた取組をより一層進める。
- ・調査結果を調査対象学年の結果として扱うのではなく、**学校全体の指導改善に活用し、組織的・継続的な取組**に役立てる。

## 調査内容

- ・教科に関する調査・・・国語、算数・数学
- ・生活習慣や学校環境に関する調査・・・児童生徒質問紙、学校質問紙

## 結果概要

### (1) 正答率（浦安市・千葉県・全国）

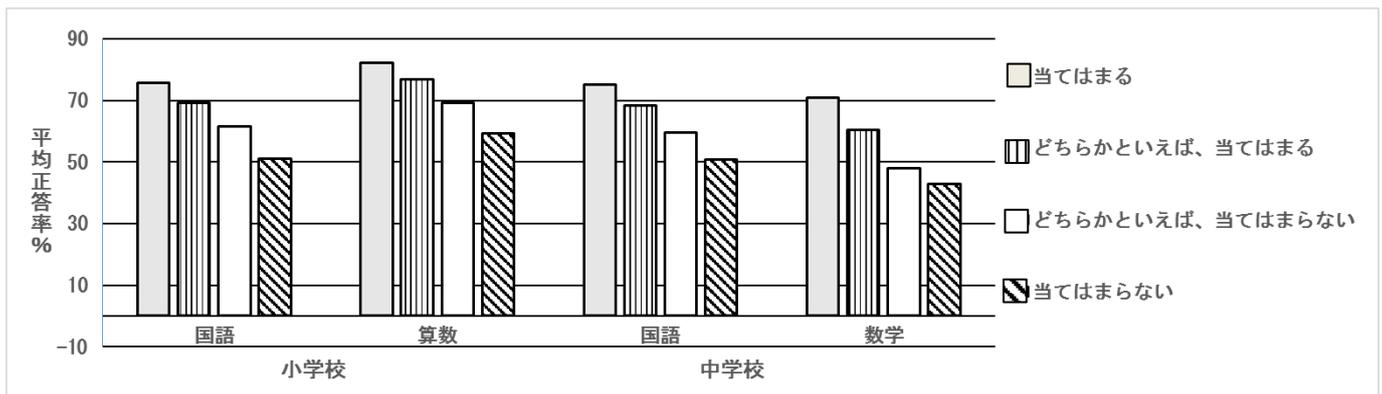
	小学校6年生 平均正答率 (%)			中学校3年生 平均正答率 (%)		
	浦安市	千葉県 (公立)	全国 (公立)	浦安市	千葉県 (公立)	全国 (公立)
国語	6.9	6.5	6.4.7	6.8	6.5	6.4.6
算数	7.6	7.0	7.0.2	6.0	5.6	5.7.2

※千葉県（千葉市を除く）・全国ともに公立学校の平均正答率（%）です。

※文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

### (2) 児童生徒質問紙調査より

主体的・対話的で深い学びに関する項目では、「**授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいました**」と肯定的に回答した児童生徒に、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。



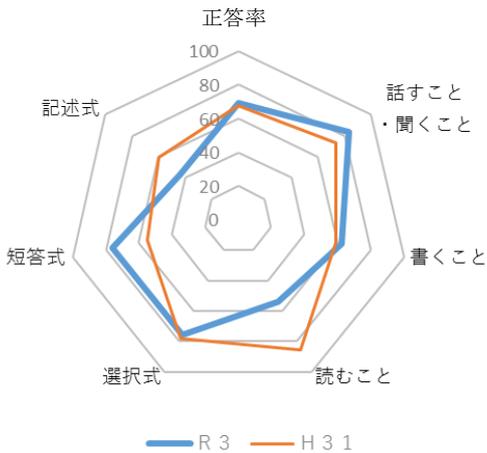
肯定的に回答した児童生徒の割合は、**小学校 75.7% 中学校 77.5%**でした。全国値**小学校 78.2% 中学校 81.0%**と比較すると浦安市はやや低い傾向がありました。

日々の授業の中で、児童生徒の主体的な学びをはぐくむことが重要です。

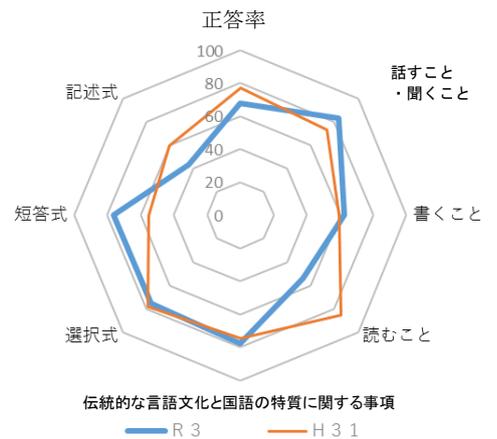
# 小学校・国語

# 中学校・国語

学習のねらいに合った適切な言語活動を位置づけましょう。根拠を明確に自分の考えをまとめ、他者の考えから自身の考えを振り返る時間を、どの教科でも継続的に日々の学習に取り入れましょう。



小中共に「記述式」に課題が見られます。要点を押さえたり、根拠や自分の考えを明確にしたりと、条件を踏まえて書く学習が大切です。



## 小学校・・・②(四)

## 課題が見られた主な設問

## 中学校・・・③(四)

**出題の趣旨** 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。※第4学年までの内容

**出題の趣旨** 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。※第1学年までの内容

相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉  
 ・面ファスナーのよさを取り上げて、国際ステーションの中で使われ方について書くこと。  
 ・【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。  
 ・六十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

**【正答例】**  
 面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(七十文字)

平均正答率	浦安	34.7%	全国	29.7%
-------	----	-------	----	-------

【紹介】に……線部「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていきますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていくことが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

**【正答例】**  
 「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

平均正答率	浦安	25.3%	全国	20.5%
-------	----	-------	----	-------

## 他学年・他教科で育てる

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章と図表やグラフなどの情報を関連付け、必要な情報を選択させる。</li> <li>集めた情報を目的に応じて、相手に伝わるように、自分の言葉でまとめるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習の中で、自分の考えを他者に説明し、他者の考えを聞くことで、自分の考えを再構成させる。</li> <li>話し合い活動の目的を明確にし、新たなものの見方や考え方の発見につなげられるようにする。</li> </ul>

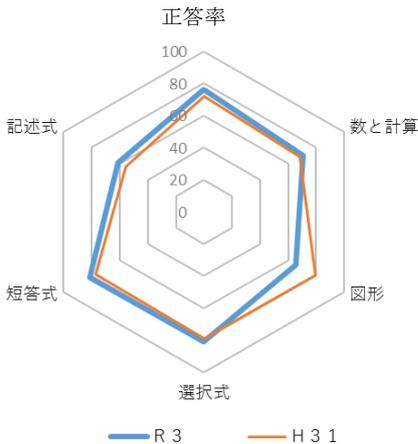
- ①元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりして、分量を考えながら文章を短くまとめさせる。
- ②目的に応じて文章と図表などの情報を関連付けて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成させる。
- ③同じ文章でも読み手の目的によって、内容の中心となる語や文章が、異なるものになることを確認し、必要な情報を見付ける活動をする。

- ①読む目的や意図を明確にしたり、読むことよって何を不得、どう活用するかを意識させながら文章を読む。
- ②「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりする中で、自分の考えをもつよう指導する。
- ③幅広く文学作品に目を向け、新たなものの見方や考え方を発見したり、自分の考えが広がったりすることを実感できるような場を設定する。

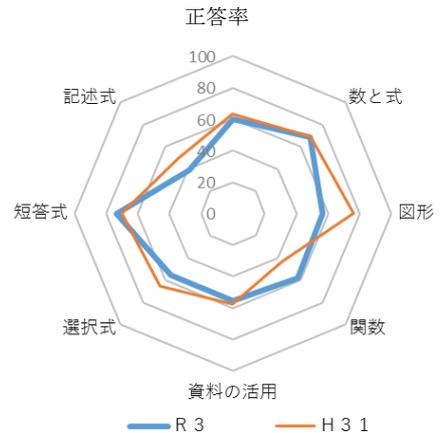
# 小学校・算数

# 中学校・数学

小中学校ともに、複数の情報から必要な情報を選び出し、目的に応じて説明する学習が必要です。習熟度や等質分割による少人数指導やグループ学習が有効です。



小中共に「図形」に課題が見られません。根拠に基づいた自分の考えをもち、他の考えと比較して思考の過程を振り返る学習が大切です。児童生徒が発言しやすい場面設定をしましょう。



小学校・・・**2**(3)

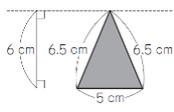
課題が見られた主な設問

中学校・・・**9**(1)

**出題の趣旨** 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。 ※第5学年の内容

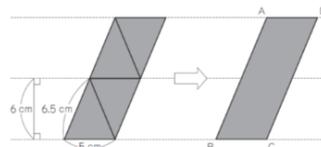
**出題の趣旨** 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。 ※第2学年の内容

次のような二等辺三角形があります。右の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、平行四辺形ABCDの面積が何cm<sup>2</sup>になるかも書きましょう。



**【正答例】**

辺BCを底辺としたとき、高さは $6 \times 2 = 12$ で、12 cmです。平行四辺形ABCDの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、60 cm<sup>2</sup>です。

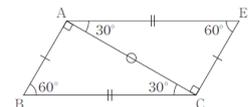
平均正答率 浦安 53.5% 全国 46.0%

図4において、 $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。

このことから、四角形ABCEが平行四辺形になることは、平行四辺形になる条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

図4



**【正答例】アを選択した場合**

- AB=CE ……①
- BC=EA ……②

①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

平均正答率 浦安 46.6% 全国 44.3%

## 他学年・他教科で育てる

### 小学校

- ・変化する事象について、前後の事象と比較し、筋道を立てて説明する。
- ・複数の資料から、課題解決に必要な情報を選び出し、論理的に解決する場面を設定する。

### 中学校

- ・図や資料で読み取れる内容を根拠として用い、筋道を立てて説明する。
- ・説明するために必要な事柄を検討する活動場面を設定する。

- ①面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係、分かっている図形の辺の長さや位置関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明する。
- ②平行四辺形や台形などの面積を求める公式を導く際に、等積変形をしたり、合同な図形を組み合わせて変形したりする。その中で組み合わせてできた辺や高さ、元の図形の辺や高さとの対応に着目できるようにする。
- ③図形に示された長さを全て用いるのではなく、図形と求積公式とを関連付け、必要な情報を選び出し、面積を求める。

- ①説明をするために、何を示せばよいかを明らかにし、どの条件を用いればよいかについて検討する活動を取り入れる。
- ②合同であることを基に、対応する辺や角の等しい関係に着目して、性質を確認する場面を設定する。
- ③予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見いだすことができるようにする。